

Title	町人藝術としての浮世繪とその時代
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1936
Jtitle	史学 Vol.15, No.3 (1936. 11) ,p.100(464)- 100(464)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19361100-0100

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

町人藝術としての浮世繪とその時代

永井荷風氏の言葉によると、浮世繪は丁度娼婦が啜り泣きする忍び音を聞くやうな哀悲しい頼りない色調を帯びた江戸の藝術であるといふが、高橋誠一郎先生は經濟史的方面からその時代との關係を巧に解説せられてゐます。

〔前略〕ヨーロッパでは早く所謂重商主義の時代に入つて居りまして、資本は夙に貸附資本から轉じて、外國貿易資本として、十分にその機能を發揮して居つたのである。……ところが遺憾ながら我國の徳川時代に於きましては、資本が僅かに大名その他の者に對する貸附資本として、その機能を發揮して居つたに過ぎなかつたのでありまして、未だ十分に商業資本として、運轉せらるゝことが出來ずに居つた時代であります。この時代の姿が版畫などの上にも現はれて居るのであります。徳川時代の儒者の言葉を藉りて申しますならば、「商賈が千乗の富を有すれば、千里控制の權は半ば其の手に歸せるもので」あります。町人階級の手に富が移りますならば、結局封建制度といふものは崩れなければならないものである。我が封建の時代は將に崩壞期に際會して居ると、かういふやうに帆足万里などは申して居るのであります。併しながら徳川時代に於きましては、封建的富は町人的富に化成して行きながら、猶ほ強力なる舊要素の抑壓拘束の爲めに、資本として十分に伸びることが出來なかつたのであります。町人階級は資本の力を以つて相當の根を張つて居つたのでありますけれども、これが未だ十分に表面に現はれるやうになつて居らなかつたのであります。ヨーロッパでは一六八八年に英國でブルジョア革命が行はれ、フランスでは十八世紀の末年に大革命が起りました。當時の日本の町人階級は、まだかういつた革命を起すだけの力を十分に備へて居らなかつたのであります。この時代の一種の哀れさが、この浮世繪と云ふ町人藝術に最も能く表はれて居りはしないかと思ふのであります。浮世繪はこの伸びんとして伸びられなかつた當時の町人階級の愛好した藝術品なのであります。當時にあつては資本主義は更らに高度の發達を遂げることが出來ずに、町人階級の手に蓄積せられた富は、多く不生産的の方面に浪費されて居つたのであります。この時代を表現する消極的ないぢらしい藝術が此浮世繪であります。ものゝ哀れといふことが浮世繪に常に著き纏つてゐます。

歌麿の後に於いて浮世繪は頽廢期に入るのであります。〔『講演』第三百二十輯二八一—二九頁所載〕(間崎万里)